



# よみがえる グリーンライン

～ちょっと寄り道「ゴン太郎」のはなし～



グリーンラインを愛する会  
理事長 丸山 孝志

「ゴン太」の想像を絶する乱暴狼藉に振り回されること1か月余り、転機が訪れました。

「なんとか里親になってくれる人はいないだろうか？」と考えた末に散歩のときに「里親募集」のゼッケンをつける事を思いつきました。

この頃には「しつけは無理」「室内飼いは無理」「街中での飼育は無理」と考えるようになっていました。

ではどうやったらそんな条件で里親を見つければ良いのかが思いつかず考えた末の奇策でした。

もちろんそのゼッケンを見て里親希望の方が現れるなどと言う安易な期待からではありませんでした。

何か話題作りをして、マスコミが取り上げてくれれば多くの人の目に留まると考えたのです。そしてその効果はすぐに現れました。

最初はローカル新聞でした。そしてその記事を見て全国紙が、ローカルのラジオ放送局が、さらにテレビがと一気に「ゴン太」は有名犬になり、いくつかのオファーをいただきました。その中から福山市駅家町の方に正式譲渡する事にしました。

現地に行って確認し、広い庭があり、周囲の家は密集していず、近所に養鶏場迄あり、少々吠えても苦情は来ないだろうと思われました。

しかし譲渡からほどなく、私と家内は深刻な口スの苦しみに襲われました。今までも里親様に保護犬をお渡しするときの辛さやしばらく続く寂しさは経験していましたが、思いっきり振り回してくれた「ゴン太」が突然いなくなったエアポケットに落ち込んだような喪失感は強烈でした。今でもよく覚えています。何度もこっそり里親様のお宅の近くまで行き、遠くから庭先の「ゴン太」の様子をうかがったものです。

そうしてやっと「ゴン太」から手が離れたのもつかの間、その里親様の奥様から「主人が入院した。私一人では手に負えない。」との連絡があり、やむなく一旦返していただき、再度オファーをいただいていた方々の中から里親様候補を探すことになり、行きついたのが今の里親様Y様でした。

飼育予定場所は岡山県の瀬戸内市の郊外、Y様のご家族が経営される鉄工所でした。「昼間は私が仕事をしているので面倒は見られる。夜は番犬としていくらでも吠えても結構。」という事で2009年1月に正式譲渡となりました。

そしてその正式譲渡を機会に、Y様はブログをはじめられました。ブログのタイトルは「飯の為なら なんでもするズラ！」。

以後「ゴン太」は「ゴン太郎」と改名し、Y様は「ねえやん」と言うニックネームで徐々に全国区の有名コンビとなり、ブログランキングの上位にランクインし、2011年には大手出版社からブログのタイトルと同じ書名で本まで出版されました。

さらに「ゴン太郎」は「ねえやん」の人生をも大きく変える事になりました。「ねえやん」は今、病気や高齢で引き取り手のいない犬たちを何頭も飼育し、多くの保護活動団体とも協力し合い、誰も真似ができない人生を歩んで居られます。

コンビのその後についてはブログをご覧いただければと思います。「飯の為なら なんでもするズラ！」で検索していただければ当時のブログはまだ残っています。

さて、ずいぶん寄り道してしまいました。次回からは本題に戻ります。「乞うご期待！」



ゴン太の本